

令和2年秋の叙勲 伝達式における総領事挨拶 (令和3年12月7日 於:総領事公邸)

勲章授与に先立ち、日本国政府を代表し一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、令和2年度秋の叙勲において、グエン・ドゥック・ホエ・ドンズー日本語学校元校長が旭日小綬章を受章されました。ホエ元校長及び同令夫人、並びにご親族の皆さま、そして多くのドンズー日本語学校の関係者の皆さまに対し、今般のホエ元校長の受章に心から祝意を表します。また、先日「ドンズー日本語学校設立とドンズー留学プログラム開設30周年記念」式典が開催されたと承知しています。30周年記念式典の開催についても心からお祝い申し上げます。

今年の4月末以来、新型コロナウイルス感染症がここ南部ベトナムでも猛威をふるい、その影響により、このお祝いの式典を長らく開催できませんでしたが、本日、こうして私の公邸で叙勲伝達式を開催できる運びとなりました。ホエ元校長とドンズー日本語学校の功績を称える30周年の祝賀に花を添えることができ、大変嬉しく思います。

ホエ元校長は、1959年に文部科学省の国費留学生として日本へ留学し、その経験を元に、日本の文化・技術をベトナムに伝えたいという強い熱意の下、1991年にホーチミン市においてドンズー日本語学校を創設されました。まさしくベトナムにおいて初めて開設された民間日本語教育施設です。以来、ホエ元校長は今日まで一貫してベトナムにおける日本語教育の発展に努められると共に、留学生プログラムを実施し、これまで多くの留学生を日本へ送り出しました。更には、留学生プログラム以外にも奨学金制度を設立され、志を有する多くのベトナム人の若者の勉強を支援されてこられました。

留学後の1974年に日本から帰国するやいなや、ベトナムの南北が統一されるなど、ベトナム激動の時代から、飛躍的發展を続ける今の時代まで時代の生き証人として生きてこられました。先生の人生をがらりと変えたのは留学時代の東京での新星学生寮での生活であったと伺いました。それが転機となり一貫して日本に対する熱い思いと信頼を持ち続けられ、現在様々な分野で日本とベトナムの交流の架け橋として活躍する後進の育成に、たゆまぬ努力を払ってこられました。

ドンズー日本語学校は、日本及び日本人についてのホエ先生の強い信念が息づいています。日本語の習得のみならず、日本に留学した際の生活や生け花や茶道等日本の文化、日本人の考え方等を教えることで、ベトナムの若い世代の方々の対日理解を深めることになり、これまで育成した生徒の総数は驚くべきことに33万人に及ぶと聞いております。ちょうど一つの中規模の地方自治体の人口に相当する人数です。これまでドンズー日本語学校で学ばれた者、また留学生プログラムで日本で勉強された者などの中には、当地に進出する日本企業で勤務し、それら企業の当地における業務に必要な不可欠の人材となることで、今日の日越二国間の経済交流の発展を人的側面から支えてきてくれていると思います。

さて、先月11日に第2次岸田政権が発足しましたが、同政権最初の外国からの賓客としてチン首相が日本を公式訪問されました。新しい政権として初めての外国のお客様をベトナムからお迎えできること、これはまさしく日本とベトナムがいかに緊密で親しい友人であるのかということを示すものです。両国の緊密な信頼関係は、今後も続き、2023年の日越外交関係樹立50周年に向

けて一層の発展を見せると思います。まさしく、この二国間の緊密な関係は、草の根レベルの交流、その中でもベトナムの対日理解の促進に貢献する人材育成の積み重ねに支えられており、ホエ元校長が長年に亘り撒かれた種が立派な実を結び、その先生の教え子達“ホエ・チルドレン”が「ドンズーファミリー」として日本とベトナムの架け橋となって二国間関係を支えています。このような先生のご貢献に改めて、感謝を申し上げたいと思います。

最後になりますが、ホエ先生が築かれたドンズー日本語学校が、これからも両国関係を支える優秀な人材を育成して行ってくれることを強く期待すると共に、ホエ先生の日本に対する熱い思いが一人でも多くの方々に継承され、一層発展していただくことを心から期待いたします。ホエ先生及び同令夫人におかれても、これからもお体を大事にいただき、引き続き先輩として、ベトナムにおける日本に関するメンターとして我々に様々且つ貴重な示唆を与えてくださるようお願い申し上げます。

改めて、令和2年度秋の叙勲で旭日小綬章を受章されたホエドンズー日本語学校元校長及び同令夫人にお祝い申し上げ、また、ドンズー日本語学校の益々のご発展を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。